



## ▼ 定期総会のご案内

今年のゴールデンウィークは皆さんいかがでしたか？

暖かい日に恵まれ行楽に、艇の整備にと大忙しだったのでは？

そんなこんなの中に今度の日曜日には後期の上架が控えております。天気がよいといいですねえ

さて、今年は例年より早く下記のとおり定期総会が開催されます。各艇の理事の方は会員に呼びかけ多数参加されますようお願い致します。

平成27年定期総会

開催日 平成27年5月16日土曜日

定期総会 午後5時より

同懇親会 午後6時より

開催場所は共にホテル万惣

会費は懇親会参加者 5,000円です

〆切は5月11日となっておりますので、まだ回答頂いていないクラブは至急連絡下さいようお願い致します。

## ▼ 追悼『上河睦美』

前名誉会長の上河睦美氏が亡くなられてはや1年(命日4月15日)になる。

4月12日に納骨の儀が執り行われ当協会からも滝野氏、熊谷氏、山本氏、亀谷氏と私が参列した。故人のお墓は立待岬墓苑の一番山側の大森浜が一望できる場所に位置しており、本人も毎日海を見ながらそして白い帆が見えればきっと一つの言葉も発していることと思う。

皆様ご承知のことだが、故人の経歴と日本のヨット界に与えた功績は誰もが認めるところであり。亡くなられる数日前まで南北海道外洋帆走協会の行く末を気になされておられたことが、今でも目に焼き付いている。もう一つ先生が小学校の先生に成り立ての頃、私の母校でもある金堀小学校(金堀町)に赴任して間もなく、校章のデザインを決めるのにあたり先生が中心になり募集したが、適当な物が応募されず結局本人のデザインした校章が今の金堀小学校の校章である。この件をぞ知ったかと言うと、二男の入学式の式次第の裏側に印刷されていた校章の説明文に上河睦美先生と記載されていたからである。その式次第を先生に見せると説明が違う！と由来を事細かにした文章を作成記載し金堀小学校に表敬訪問する日を決定した。その直後に体調を崩し残念ながら訪問はかなわなかった。自分としてはもう少し早く行動に移すべきだったと思ったが・・・改めて先生が残した様々なことに感謝と哀悼の念を皆様と確認したい。

## \*\*\*アンカーライト\*\*\*

### 第28話「港放浪記」湯の川港

現職で函館に勤務していたころまだ工事中だった湯の川漁港によく休憩に行ったものだ。

漁港が完成したのが2011年。港内の湯の川温泉側にヨットが着けるにはちょうどいい高さの岸壁があって、すぐにも遊びに来たいと思っていた。

昨年何かの折「勸進丸」に同乗して湯の川漁港に入港した。立待岬を超え空港の管制塔を目指してまっしぐら約3マイル、小一時間も走るとポート側に「洋服の青山」の看板が見えてくる。これをアビームに見た辺りからポートにタック。海岸近くまで寄ると漁港のテトラが見えてくる。なかなか護岸と灯台が見えてこないのとどンドン砂浜が近づいてくるので少し不安にかられながらも間口を発見、ちょっと狭いがこわごわ入港し斜路から伸びている磯船用のアンカーラインに注意しながら目的の岸壁に舫う。

港内は漁船も少なく魚釣りの人が数人いてのんびりムードが漂う。新しい漁港は公園風の作りで防波堤の上は散歩コースにもなっていてぼけ～っとするにはちょうどいいのだ。

ほのかな潮風が頬をなで遠くに飛行機の離陸しようとする音が聞こえる。

港から数分歩くと海岸道路があり、すし屋とラーメン店が数件ある。昔「函ヨ」のメンバー「りんさん」が国道沿いで営業しているのでさっそく表敬訪問。ラーメン屋といえばやはり「ギョーザとビール」で心を潤し「塩ラーメン+半チャーハン」セットでご満足！！

湯の川温泉というのは温泉街のなかでは珍しく通りを歩いても温泉臭がしないし、周りに飲み屋やお土産屋もほとんどなくいまち温泉街の趣がない。ゆかたなんぞ羽織って温泉街をうろついたり風情を楽しむといった姿が見られないのがちょっと寂しいのだ。

でも、湯の川電停まで行くと結構飲み屋もありタクシーを拾っても千円もかからないだろう。呑み助というのはなんでこうも外で飲みたがるのか。でもね、近間といえども見知らぬ港に入っているといつもと違うルートでたどり着いた飲み屋さんで呑む酒はまた格別なのである。それだから我々は市電で来ればすぐ来れるものを時間をかけて、遠回りをして時にひやひやしながらもわざわざ船で来るのである。

ま、なにはともあれ初入港を果たし、一応の儀式を滞りなく完了し帰路についたのである。そうだ。「万惣」での宴会時は船で来よう。